

平成26年度病害虫発生予察特殊報第2号

平成26年7月24日
栃木県農業環境指導センター

キク茎えそウイルスのピーマン、ミニトマトでの発生について

- 1 病害虫名：ピーマンえそ輪点病
トマト茎えそ病（仮称）
- 2 病原ウイルス：Chrysanthemum stem necrosis virus (CSNV)
- 3 作物名：ピーマン、ミニトマト
- 4 発生経過
2014年6月、県南部の鉢物ピーマン（品種：スイートヒート）及び鉢物ミニトマト（品種：千果）で葉の退緑・えそ、茎のえそなどの病徴を呈した株が発生した。
農業試験場病理昆虫研究室及び当センターにおいてRT-PCR法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス Chrysanthemum stem necrosis virus (CSNV) であることを確認した。
本ウイルスによる病害は、国内では、キク、トマト、アスター、トルコギキョウ、ピーマンで確認されている。本県では2007年にキクで発生を確認しているが、ピーマン及びミニトマトでの発生確認は初めてである。

5 病徴

- (1) ピーマンでの病徴は、葉に退緑症状や円形のえそ症状（図1）、茎にはえそ症状（図2）、果実には円形のえそ症状を生じる。
- (2) ミニトマトでの病徴は、茎に明瞭なえそ症状、葉に退緑・えそ症状を生じる（図3、4）。また、トマト黄化ウイルス（TSWV）によるトマト黄化えそ病に類似する。



図1 ピーマンの葉の退緑・円形えそ症状



図2 ピーマンの茎のえそ症状



図3 ミニトマトの葉の退緑・えそ症状



図4 ミニトマトの茎のえそ症状

6 病原ウイルスの性質及び伝染

本病はウイルスを保毒したミカンキイロアザミウマ(図5)によって媒介され、一度ウイルスを獲得すると死ぬまでウイルスを伝搬する(永続伝搬)。ミカンキイロアザミウマは、野菜類、花き類、果樹類に広く寄生する害虫である。成虫は青色に誘引される習性があるので、青色の粘着トラップを設置しておくことで発生消長を把握することができる。



図5 ミカンキイロアザミウマ

7 防除対策

- (1) 発病株は抜き取り・埋没処分を行い、二次伝染防止に努める。
- (2) 媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。特に、育苗ほ場での感染は被害が拡大することが懸念されるので、防除を徹底する。
- (3) ミカンキイロアザミウマの防除に当たっては、薬剤による防除だけでなく、ハウス開口部への白色または銀色の防虫ネット(0.4 mm目合い以下)展張、ほ場及び周辺の除草など物理的、耕種的防除も併用する。

8 ピーマン・ミニトマトのミカンキイロアザミウマ及びアザミウマ類に登録のある主な防除薬剤

(平成26年7月24日現在)

○ピーマンで登録のある薬剤

薬剤名(対象害虫)	希釈倍数	使用時期	使用回数	薬剤系統名
スピノエース顆粒水和剤 (アザミウマ類)	5,000	収穫前日まで	2回以内	スピノシン系
アグリメック (アザミウマ類)	500~1,000	収穫前日まで	3回以内	マクロライド系
コテツフロアブル (ミカンキイロアザミウマ)	2,000	収穫前日まで	2回以内	ピロール系

○ミニトマトで登録のある薬剤

薬剤名(対象害虫)	希釈倍数	使用時期	使用回数	薬剤系統名
マッチ乳剤 (ミカンキイロアザミウマ)	2,000	収穫前日まで	2回以内	IGR剤
スピノエース顆粒水和剤 (アザミウマ類)	5,000	収穫前日まで	2回以内	スピノシン系
ディアナSC (アザミウマ類)	2,500	収穫前日まで	2回以内	スピノシン系

注) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>